

北経研セミナー開催レポート 新入社員研修

「働くことの意味」と日常の「基本行動」を重視する ～社会人マインドと仕事の進め方 人間関係の基本を学ぶ～



講師 西澤 浩二氏

開催日：2022年4月4日～5日(富山)、6日～7日(金沢)、11日～12日(福井)
講師：グローアップ教育センター 代表 西澤 浩二氏 受講者数：119名

本研修では『働くことの意味』と日常の『基本行動』を重視する」をテーマに、社会人の本質をつくる内容を一風変わった体験型で学びます。さまざまな企業から派遣されてきた新入社員たちが、この研修を通して刻々と成長していく姿をレポートとして紹介します。

●「これでいいのか」と問題意識を持つこと

開始早々、講師から出された「課題」は以下のとおり。

- ① 7～9名でグループ分け
- ② 所属企業の分散や男女比を配慮
- ③ グループごとに机を島型にレイアウト
- ④ グループリーダーを決定
- ⑤ 講師へ完了報告（制限時間10分）

当初、戸惑う様子は見られましたが、自分たちで考え、意見をまとめ、実行に移すことでなんとか時間内に完了。全員が着席し、ホッとしたのもつかの間、講師から「本当にこれで2日間研修を進めていいですか」との問いかけがありました。「単に与えられた条件をクリアするのではなく、机の向きや配置などを含めて全員が快適に受講できる環境になっているか」について再確認が求められ、全員で相談しながら配置を修正していきます。「自分の殻にこもらず、相手や周囲を、手をかざすようによく見て、自分から耳を傾けて聴きに行く姿勢を持つことが気づきのセンスを磨くことになる。つまり、『本当にこれでいいのか？』と声に出して行動に移すこと、問題意識を持つことを社会人として実践していただきたい」と講師からメッセージが伝えられました。

●一歩前に踏み出す

次に受講者全体の総リーダーをジャンケンやくじではなく、立候補のみで選出します。初めに、全員が「絶対にやりたくない」「立候補してみよう」「やってみたい気持ちもあるが、出来るか不安で迷っている」



全員のなかから総リーダーを立候補により選出

の3つの選択肢から非公開で自分の気持ちを正直に表し、その後実際に選出が始まります。「総リーダー立候補者は手を挙げてください」の講師の声掛けに一人、また一人と手が挙がりました。

ここで講師は「迷っている」人にさらに語りかけます。「研修の場で経験したことは、実践の場でも必ず役に立つ。研修という学びの場なのだから失敗してもいい。プロとして出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかを決断して一歩踏み出してみよう」と促され、徐々に増えていく立候補者の数。受講者たちは、自分自身と向き合い、不安と戦って前に踏み出してきました。総リーダー、サブリーダー、各グループのリーダーが決まり、一つの組織が出来上がり、ここから本格的に研修がスタートします。

●課題1 社会人「基本行動八箇条」

社会人基礎力は、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的能力」とされ、知識や能力を最大限に発揮するためのベースであると言われています。大きく分けて、①「前に踏み出す力（主体性、実行力など）」、②「考え抜く力（課題発見力、想像力など）」、③「チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性など）」を指します。

この社会人基礎力を鍛えるために、日常的に行うべき行動を示したものが、次の「基本行動八箇条」です。

《基本行動八箇条》

- 第一条 明るくさわやかに、大きな声で挨拶せよ。挨拶は人間関係を広げ豊かにする。
- 第二条 同僚、上司、お客様等、相手を理解し受け入れよ。素直な気持ちこそ成長の秘訣だ。
- 第三条 呼ばれたら「ハイ」と元気な返事。姿勢を正し、気合を入れて指示を受けよ。
- 第四条 命令の受け方は、メモをとり復唱確認。わかったつもりはわからないことと同じ。あいまいなところは必ず質問せよ。
- 第五条 とりかかりはすばやく。作業はてきぱきと自らすすんで行え。行動に機敏さと積極性を持つ。
- 第六条 仕事は命令者への報告をもって完了する。中間報告は、大きな仕事、長期の仕事を成し遂げる要である。
- 第七条 反省のないところに進歩はない。報告には仕事の反省点を添えよ。
- 第八条 自分がやり遂げる。人が見ていなくてもやる。この自覚と行動に徹したとき、己の真価が発揮される。

研修では、《基本行動八箇条》をグループごとに分担して暗記・暗唱するという課題に取り組みました。社会人としての基本行動を頭に叩き込むとともに、グループメンバーが力を合わせて課題を解決していく重要性を学んでいきます。

《基本行動八箇条》のリレー暗唱では、1日目の昼過ぎには目標タイムをクリアしなければならず、各個人、各グループが懸命に暗記・練習し、目標タイムに近づいていました。しかし、本番では練習通りにはいかず、現実の厳しさを痛感。試行錯誤の末、何とかクリアするグループが出てくると、拍手と歓声が沸き上がります。

最初はクリアできなかったグループも、先にクリアしたグループに助けられながら、どうすれば上手くいくかを考え、ついに目標タイムをクリア。クリアしたグループのメンバーだけでなく、見守っていたほかのグループのメンバーも一緒になって喜び、労い、祝福しました。

講師からは、「自分のグループがタイムをクリアした瞬間に『やった!』と思うのは満足感に過ぎない。他のグループのメンバーも一緒になって喜んで、祝福してくれたことで、満足感が達成感に変わる。この達成感こそが人を成長させる原動力であり、忘れられない経験として蓄積される」と、この課題に取り組んだ目的の解説がありました。

●課題2 徹底した挨拶等の実践

研修で何度も繰り返し徹底して行われたことは、挨拶と返事。まずお辞儀についての「3つの基本形」を学び、次に場面に応じた「7種類の挨拶」を組み合わせ、グループリーダーを中心に練習を行います。その練習にも課題があり、お辞儀の姿勢や声の出し方などをお互いに確認し合いながら、100回、200回、何百回と行い、グループで本当の挨拶を完成させます。

研修では、挨拶の形や発声を学ぶだけではなく、「なぜ挨拶をしなければならないのか」についても解説。講師は、「意味も分からず行う挨拶は、相手に伝わらないし長続きもしない」と話し、経験豊富な社会人でも戸惑ってしまうような「そもそもなぜ挨拶が必要か」といった質問を受講者たちに投げかけ、次のように説明されました。「挨拶は、相手の心を受け入れて、相手の心に迫るという意味があります。挨拶による第一印象も大事だが、素直な気持ちで相手を受け入れ、ありのままの自分を表現し、相手に通じて初めて挨拶と言えるのです」

この徹底的な挨拶の練習を実践するなかで、お互いが相手を看て気遣う気持ちのやり取りができた時、「ラ・ポール（相互の信頼関係）」が生まれます。それが挨拶を自ら進んで行う理由であることを受講生たちは学びました。



グループごとに練習の成果を披露

●2日間の研修を終えて

この2日間、受講生たちは講師が出した課題をこなすなかで、苦しい状況や緊張した場面に何度も突き当たりました。そのたびに、働くことの意味、学生と社会人の違い、社会人の厳しさなどについて、組織の疑似体験を通じて実感できたことと思います。

また、社会人としてのマナー・エチケットの一つとして、“不”の解消があります。「不の解消」とは、相手が不快や不安に思う前に気づき配慮することであり、そこには、人を思う心が息づいているということも学んだのではないのでしょうか。

研修が終わり、研修室を出る受講者たちは、挨拶の声、姿勢、自ら進んでいすや机の後片づけをする行動など、研修で学んだ成果をさっそく発揮していました。受講生を派遣した企業からも、研修前と後では新入社員の目の輝き、挨拶や返事の仕方などに大きな変化があり、きびきびした態度で仕事に取り組んでいると大変好評を得ています。主催者としてもこの研修で受講生の皆さんの成長を感じることができ、大変喜ばしく思います。

最後に、講師から受講生に向けて贈られたはなむけの言葉を紹介します。

「2日間の研修でお辞儀・挨拶を徹底的に練習し、その意味も目的も理解し、実践できるようになりました。研修の成果として、会社でも挨拶をしっかりと行ってください。先輩、上司から同様の元気のある返事は来ないかもしれません。でも、新入社員でも、元気で素晴らしい挨拶で会社に新風を吹き込む、気づかなかったことを気づかせる、そんな貢献ができるのです。新入社員を迎える企業にとっては、変革のチャンスでもあります。新入社員の皆さんを見て、会社の先輩、上司が気づくように頑張ってください」

(事務局 萩中 愛香)

●新入社員フォローアップ研修（入社1～3年目対象）

8月31日(水)福井、9月1日(木)富山、2日(金)金沢

「働くことの意味」と日常の「基本行動」について振り返り、自身の成長と課題を確認します。プロ意識の徹底、「報・連・相」などのコミュニケーションの取り方をはじめ、一歩進んだ基本スキルについて体験型で学んでいただきます。詳細・お申し込みはHP「セミナー講演会」または右のQRからご覧ください。

